明るいムードのセレモニー

新春恒例の行事となったCAR of THE YEAR授賞式は、終始明るい雰囲気のなかでおこなわれた。

●ベールのなかから栄光のクルマが

1250車という空前のニューモデル・ラッシュに見舞われた'77 CAR of THE YEARの授賞式は、1月10日午後5時半から、東京・赤坂のプリンスホテルでおこなわれた。

出席者は、平尾審査委員長をはじめとする各審査委員、受賞各メーカーの首脳とエンジニア、それにモーターファン読者などおよそ200人あまり。

授賞式は、(株)三栄書房・鈴木社長のあいさつで始まり、ついで平尾審査委員長の選評をかねたあいさつ=別項掲載=があったのち、前回の受賞メーカー、本田技研の松尾広報部長から、純銀製のトロフィーの返還がおこなわれた。

受賞車の発表は、例によって司会のアナウンスと同時に、クルマがベールをぬぐ、という趣向。まず、軽乗用車部門にはじまり、ポピュラーカー部門、ハイオーナーカー部門、ラグジュリーカー部門、読者賞…とすすむ。

最後に、一段高いところに置かれたグリーンのシャレードが、満場の拍手のなかでベールをぬいだ。

●YEAR CARは愛知県のヤングミセスに

つづいて、各受賞車のメーカー代表者へトロフィーと楯の授与。

'77 CAR of THE YEARとポピュラーカー部門賞を獲得したシャレードに、一段と明るいスポットライトが浴びせられた。

「当初は、社内でも反論があっただけに、シャレードがCAR of THE YEARに輝いたことは無上の喜びです」——ダイハツ工業・大原社長のあいさつにつづいて、各メーカーの首脳やエンジニアたちが受賞の喜びを語った。

このあと、景山審査委員の発声で乾杯。ただちにカクテル・パーティにうつる。会場の雰囲気は、ここでぐっとリラックスしたムードに変わり、各審査委員のユニークなスピーチとなごやかな歓談がつづいた。

さらにこのあとCAR of THE YEARの協賛事業として募集したミニ感想文の入選発表がおこなわれた。最優秀賞の受賞者にはYEAR CARとなったシャレードXTEがプレゼントされる。この幸運を射止めたのは、愛知県豊橋市のヤングミセス、船井由紀子さん。賞状とシャレードXTEの日録を受けとった後も、半信半疑のようす。

最後にCAR of THE YEAR協賛の福引大会がおこなわれ、明るいムードがあふれるなかで授賞式は終了した。

シャレードを前に記念撮影をするダイハツ勢。

平尾審査委員長から純銀製のトロフィーを受けるダイハツ工業・大原栄社長。

「シャレードの性格上、このポピュラーカー部門賞が一番欲しいものでした」——ダイハツ工業・尾野専務。

シャレードXGE

1ℓ大衆車の魅力を実証

■試験項目とデータ索引

動力性能試験	芝浦工業大学／小口研究室
燃費性能試験	芝浦工業大学／小口研究室
排気ガス測定	日本自動車研究所研究第2部
振動・騒音試験	東大生研／巨理研究室
操縦性・安定性試験	日本大学／景山研究室
重量・アライメント	運輸省交通研車両構造研究室
ブレーキ試験	
寸法測定	東京農工大学／樋口研究室
視界測定	東京農工大学／平田研究室

主催：社団法人 自動車技術会
モーターファン編集部
とき：昭和52年11月6日、7日、8日
ところ：(財)日本自動車研究所 谷田部テストコース
日本大学理工学部習志野交通総合試験路
東京農工大学工学部
運輸省交通研車両構造研究室
座談会：昭和52年11月15日 都市センターホテル

出席者

平尾 収	東京大学教授	小口 泰	芝浦工業大学教授
櫛引 治	東京大学教授	山本 三郎	芝浦工業大学教授
小口 泰平	芝浦工業大学教授	立石 克泰	東京大学助手
沼尻 到穂	日本自動車研究所研究第2部主任研究員	音 稔	東京農工大学講師
山口 京一	日産自動車評論課	星 浩	日産自動車評論課
司会			
山元 毅	運輸省交通研車両構造研究室	岡崎 宏司	日産自動車評論課
成田 淳一	日産自動車評論課	山口 京一	日産自動車評論課
星 浩	日産自動車評論課	尾野 順一	ダイハツ工業株式会社
西田 弘	技術企画室主任	古庄 輔	技術企画室主査
下浦 宏次	技術企画室主任	桑畑 周二	ダイハツ自動車販売株式会社
古部 昭右	東京支社営業所	高田 欣之助	東京支社営業所
神部 正敏	広報課長	高洲 正	広報課